

【別添2】

令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書（教務関係）

I 自己評価		岐阜県立華陽フロンティア高等学校		学校番号	6401	
1 学校教育目標	(1) 高校生としての基礎的・基本的な知識や技能と主体的に学習する意欲や態度を確実に身に付けさせ、生徒一人一人の個性を伸ばし、心豊かでたくましく生きる力を育む。 (2) 社会の規範を守る態度を養い、地域社会の一員としての自覚を高める。 (3) 健康で安全な生活を送るため、基礎体力の向上を図り、健康な心身の保持増進に努める態度を育む。					
2 現状の分析	○生徒の個々の課題を把握し、特別支援の対応を大切にしつつ、総合的な探究の時間にソーシャルスキルトレーニング（以下SST）を取り入れることで、社会自立につながる支援に取り組んでいる。 ○ICTの活用とユニバーサルデザイン（以下UD）を意識した授業展開を積極的に実践している。基礎学習の振り返り場面や習熟度別・少人数指導を行う科目の設定、多様な選択科目を設定するなど、生徒の学びやすさや高めるための柔軟な指導を積極的に行っている。 ▲さまざまな事情から継続した学習経験の少ない生徒が多く、短期的に基礎学力の定着に至ることは難しい。					
3 学校の抱える課題	・SSTで身に付けた力を、授業において効果的に活用し、社会的に自立するためのスキルの獲得を目指す方法の検討と実践。 ・社会自立に必要な基礎学力を定着させるために、学力向上に接続できるような授業展開の検討と実践。					
4 今年度の具体的な重点目標	◇自己の在り方生き方を自ら考える力を育成し、良好な人間関係を構築する力を養う。 ◇興味・関心を高める授業改善を行い、分かる授業を推進し、基礎学力の定着を目指す。					
年 度 目 標			年 度 末 評 価			
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価
自己の在り方・ 生き方を考える 力の育成、良好 な人間関係の構 築、総合的な探 究（学習）の時 間	①授業の中において、SSTを導入し聞く・話す・協力するスキルの獲得の検証	①「授業アンケート」の自己評価の向上、スキル獲得の向上がみられたか。	①「授業アンケート」の生徒自己評価は聞くスキル、話すスキル、協力するスキルそれぞれ85%以上であった。	A	○基本となる全てのスキルに対して意識し、実践しようとする姿が確認できた。 ▲実社会で生き抜く逞しさを身に付けさせる必要性が年々高まっている。	
	②年次ごとに系統性をもたせ、身に付けさせたいスキルを設定	②SSTアンケートの結果の結果において、スキル獲得の向上がみられたか。	②各年次で約5回のSSTを実施した。スキル獲得に向けた意識の高まりが感じられた。全学年次でスキル獲得の傾向が高い値で確認できた。	A		
学習指導	①興味・関心をもって授業に取り組むためのICT機器の活用方法の研究と、UD（ユニバーサルデザイン）を意識した授業実践	①「授業アンケート」における生徒の前向きな姿、興味・関心に関する肯定的評価が、70%以上であったか。	①「授業アンケート」による興味・関心に関する回答結果は、肯定的回答が91%と非常に高評価であった。	A	○生徒の授業に対する意識や興味・関心が一層高まった ▲基礎学力定着のための具体的方策を検討する。	A
授業改善	① ICT機器を積極的に活用した授業実践	① ICT機器やタブレット、各種アプリを効果的に利用する。	①ICT機器やタブレット等、すべての教科で日常的に活用できている。	A	○ICT機器、タブレットの活用が一層促進された。 ▲タブレットや各種アプリを効果的に用いる授業展開をさらに検討・研究する。	
	②教員間の公開授業の実施と公開授業の参観率の向上	② 職員の公開授業率、参観率を高める。	②授業公開実施率は100%だった。公開授業期間における参観率は約50%であったが、全ての科において、研究授業を実施できた。	B		
II 学校関係者評価			実施年月日：令和4年2月18日			
授業参観により先生方の授業における組み立ての工夫が分かり、それに応える生徒の反応もとても良かったと思う。授業参観を通じて学校の現状が良く理解できた。来年度も継続を希望する。タブレット端末や学習ソフトなどのICT環境の整備がされたので、それらを授業をはじめ教育活動に積極的に活用していただきたい。			12 来年度に向けての改善方策案			
			・SSTや各種行事を通して、他者と関わる力を向上させ、実社会を生き抜く逞しさを身に付けるための支援や指導を行う。 ・研究授業を実施し、基礎学力定着のための具体的方策を各科で継続研究する。			

【別添2】

令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書（生徒指導関係）

岐阜県立華陽フロンティア高等学校

学校番号

6401

I 自己評価

1 学校教育目標	(1)高校生としての基礎的・基本的な知識や技能と主体的に学習する意欲や態度を確実に身に付けさせ、生徒一人一人の個性を伸ばし、心豊かでたくましく生きる力を育む。 (2)社会の規範を守る態度を養い、地域社会の一員としての自覚を高める。 (3)健康で安全な生活を送るため、基礎体力の向上を図り、健康な心身の保持増進に努める態度を育む。
2 現状の分析	○「校外機関・職員間の連携を密に図り生徒状況を受容・理解した支援」「情報共有・共通理解に基づく教育相談体制の充実」 ▲「地域との交流及び本校の実情への理解不足と関わり」「多様な生徒・家庭事情の把握したうえで対応」
3 学校の抱える課題	・様々な問題を抱えた生徒に対して個に応じた指導の充実。 ・高校生としての基本的な規律の習得や、社会の一員としての規範意識の向上。 ・学校行事やボランティア活動を通して、達成感や充実感を味わい、自己肯定感の向上を図る。
4 今年度の具体的な重点目標	◇カウンセリングマインドを活用し個に応じた生徒理解に心掛ける。 ◇生徒自らが社会的自立を果たせる支援。 ◇社会の一員としての自主的・実践的な態度の育成。

年 度 目 標			年 度 末 評 価			
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価
生徒指導	①カウンセリングマインドを柱に生徒との信頼関係を築く。	① 新入生の長欠者を20%未満に減らすことができたか。	① 年2回、生徒情報交換会を実施。年次会と生徒指導部が情報共有をし、問題の早期発見に努めた。	A	○新入生の30日以上欠席は14名に対し、昨年と比べ13名減少した。 ▲交通事故件発生件数は10件。前年比5件増。 ○SNSによる情報モラル違反が1件。前年10件に対して大幅減。 ○MSリーダーズ活動を年間3回実施した。	A
	②規範意識を向上させ、TPOに応じた行動がとれる生徒を育てる。	②生徒の交通マナー・モラルなど、規範意識向上の指導ができたか。	②外部講師による情報モラル講話、薬物乱用防止講話の実施。 全職員による巡回指導の実施。	A		
	③MSリーダーズを中心としたボランティア活動への積極的な参加を勧め、生徒の自己肯定感の向上を目指す。	③MSリーダーズ活動が年間3回以上実施できたか。また、参加者が全校生徒数の15%以上であったか。	③生徒会が中心となって「高校生防災アクション」に参加し、防災意識の向上を図った。	A		
教育相談	生徒一人一人に応じた教育相談体制の充実を図る。	「学校評価アンケート」の肯定的評価が、保護者と生徒ともに68%以上であったか。	年3回教育相談週間にて懇談を実施した。カウンセリングの面談は昨年と比べ減少した。	A	○肯定的評価は生徒が72%、保護者が83%であった。生徒や保護者とも肯定的意見を占めた。	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年2月28日

<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中で、生徒は毎日不安を抱えて過ごしていると思う。引き続き、教員が生徒一人一人に寄り添い、不安を取り除くように努力をしていってほしい。 ・マスク、手洗い、黙食などのコロナ対策がしっかりと実施されていることが分かった。緊張感をもって継続した対策をしていただきたい。

12 来年度に向けての改善方策案

生徒の抱える問題は千差万別で多様化している中、個の情報を正確に把握していくため、日頃より全職員がカウンセリングマインドに心掛け、声掛けをしていく中で情報収集を行い、また校内の情報共有だけではなく、外部機関に相談し、解決方法を見出すことで早期解決につながる生徒指導を来年度も心掛けて実施していく。

【別添2】

令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書（進路指導関係）

岐阜県立華陽フロンティア高等学校

学校番号

6401

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 高校生としての基礎的・基本的な知識や技能と主体的に学習する意欲や態度を確実に身に付けさせ、生徒一人一人の個性を伸ばし、心豊かでたくましく生きる力を育む。 (2) 社会の規範を守る態度を養い、地域社会の一員としての自覚を高める。 (3) 健康で安全な生活を送るため、基礎体力の向上を図り、健康な心身の保持増進に努める態度を育む。
2 現状の分析	○「職員の共通理解に基づく進路相談体制の充実」「生徒の実態に即した学校体制の確立」「資質向上に繋がる充実した進路行事の実施」 ▲「地域との交流及び学校への理解の不足」「困難な家庭事情への対応」「様々な特性をもった生徒への対応」
3 学校の抱える課題	・入学時から卒業後を見据えた進路意識を涵養するため、地域創生キャリアプランナーやハローワークジョブサポーター、キャリアパスポートを活用して、自己の将来像を描くためのキャリアカウンセリングを実施し、自己肯定感を育み、社会に貢献する意欲を養う。
4 今年度の具体的な重点目標	◇生徒が社会的・職業的に自立できるようマナーと基礎的な能力を養い、自己の在り方生き方やライフプランを見つめ、主体的に進路選択ができるキャリア教育の実施と豊富な進路情報の配信を進める。

年 度 目 標			年 度 末 評 価			
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価
キャリア支援	①コミュニケーション能力の向上を図り、社会的・職業的自立を支援します。	①面接や履歴書指導など、個々に応じた指導ができたか。 ②卒業時における進路未決定の生徒を25%未満に減らせたか。 ③「ソールスキルトレーニング（SST）」を計画的に実施できたか。	①HR担任による徹底した面接・作文指導 キャリアプランナーやジョブサポーターによる活発な就職面談の実施 ②進学100%(40/40)、就職98%(57/58)、進路未定20%(20/125) 3月末現在 ③総合的な学習の時間を利用し、必要なスキル見だし、年次により年2～5回のSSTを実施	A A B	○きめ細かい指導による一次試験での合格率の向上 ○粘り強い指導で進路未定者が25%を達成できた ○年次毎に必要なとされるSSTを実施できた ▲回数などが十分でない年次があった	A
	②様々なキャリア教育関連行事の開催、豊富な進路情報を配信します。	①キャリア教育活動の一環としての充実した進路行事を実施できたか。 ②「学校評価アンケート」における進路指導関連項目において、肯定的評価が70%以上であったか。	①進路情報の発信を積極的に実施 進路ガイダンスなど多く進路行事を生徒のニーズに合わせ、効果的に実施 ②保護者85% 生徒75%が肯定的回答 生徒の進路に対する意識付けが、できてきている。	B A	○キャリア関連行事が進路決定に大きく寄与 ○更なる1, 2年次生への進路意識の涵養 ▲キャリアパスポートの活用	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年2月28日

<p>・自分の生き方を考え、なりたい自分を見つけるといったスクールポリシーにおいて、1年次に不登校経験のある生徒を登校させることに重点を置くだけでなく、生徒に対して将来を考えさせる取組ができると、卒業年次での就職や進学に向けて活動の幅が広がると思う。</p>

12 来年度に向けての改善方策案

<p>「困難な家庭事情への対応」に関しては、家庭と生徒と担任の連絡を密にして進学・就職に関する情報共有を図り、必要であれば新卒応援ハローワークなどを利用することで対応していきたい。 「様々な特性をもった生徒への対応」に関しては、生徒が特性を理解したうえで、特性に合った進学・職業選択を、外部機関などを利用しながら対応していきたい。</p>
